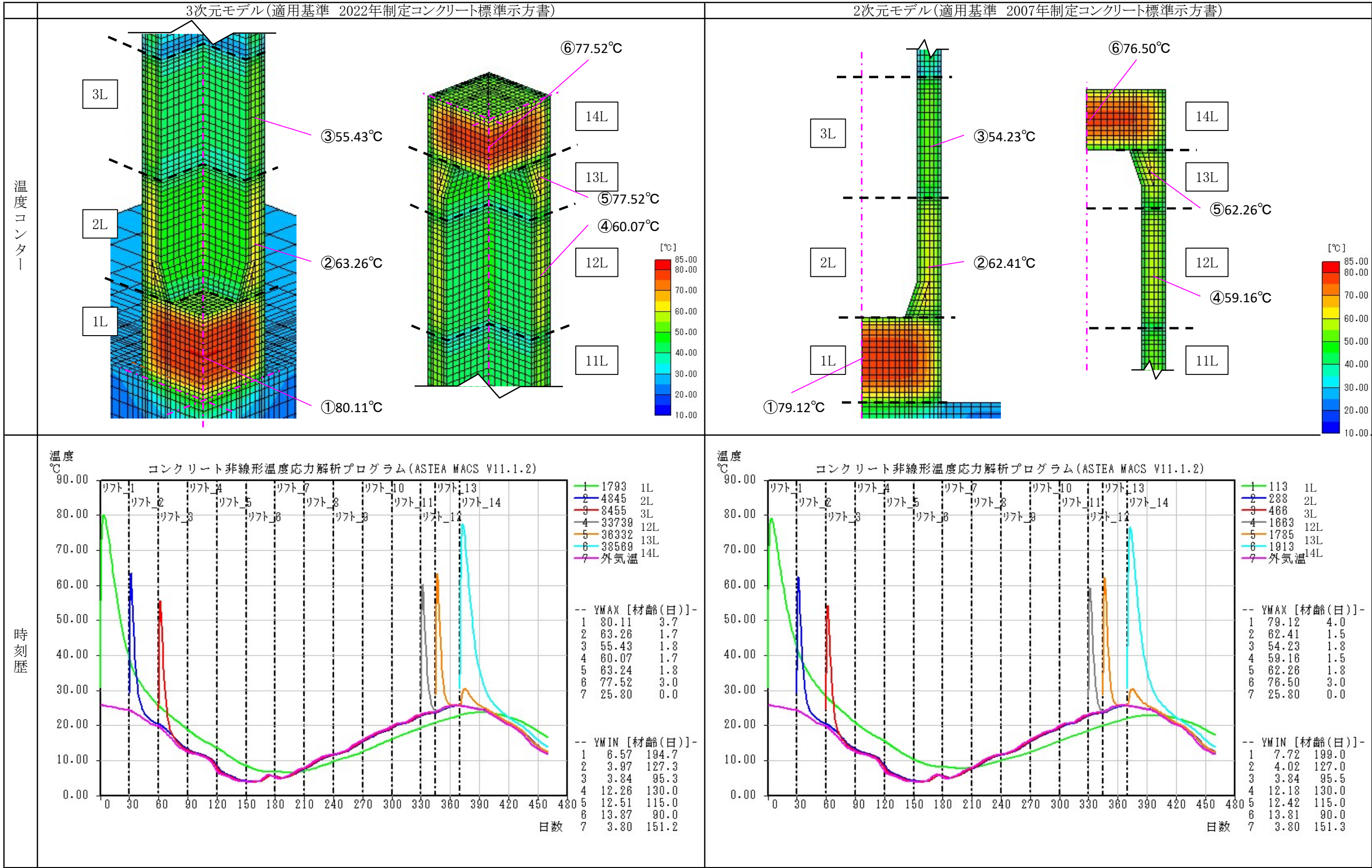


【3次元モデル(JSCE2022)とCP法(JSCE2007)との比較結果】

JSCE2012年に温度上昇式が見直された影響で3次元モデルの方が約1℃程度、最高温度が高い。



1～3Lは3次元モデルでは残留しており年間を通して大きな変化はないが、2次元モデルでは2リフト以上後などでも後続リフトの影響を比較的大きく受けている。
 12～14Lにおいても、3次元モデルにおける12リフトは残留しているのに対し、2次元モデルでは12リフトは14リフトの影響を受けひび割れ指数は回復している。
 3D解析は各リフトの打継部近傍の結果が悪くなるが、2D解析はリフト全体が悪くなる。

